

環境ニュース第4号 (2017年12月6日)

1. 身近な水環境の全国一斉調査を行いました



水質調査の様子

平成29年6月7日に、全国の市民団体と国土交通省が連携して行っている「身近な水環境の全国一斉調査」に参加しました。農学部では、一級河川である天竜川でCOD(化学的酸素要求量)とpHの測定を行いました。CODは有機汚濁の指標として用いられるもので、数値が高いほど水が汚れていることとなります。調査の結果、天竜川の水は農業用水として使うことができるが、水に入って遊ぶには汚いということがわかりました。天竜川の現在の状況が分かってよかったです。また、今回は1ヶ所しか測定

を行うことができなかつたため、上流と下流の差を調べることはできませんでした。来年以降、調査をしていけたらいいと思いました。

(環境学生委員会2年 桐畑 葵)

2. 夏の信大Earth Caféを開催しました

平成29年6月14日に、環境学生委員会が主催する環境に配慮した事柄を学習し実践する講座「夏の信大Earth Café」を、講義棟2階の学生ラウンジで開催しました。

枯渇資源を原料としない蜜蝋キャンドルを作り、電気の代わりに灯して過ごす講座を開催しました。まず、学生委員の講師による蜜蝋に関する講義後、各自キャンドルを作製しました。キャンドルは、型を使用する作製方法もありますが、今回は溶けた蜜蝋に灯芯を浸けて、冷まして固めていくディッピングという方法により作製しました。時間をかけて年輪のように大きくなっていくキャンドルを作ることで、落ち着いた時間の流れを体験する機会になればという趣向でした。参加者からは、「いい香りがするので癒された」「学内でワークショップに参加できるのはうれしい」という感想をいただきました。

急遽開催しましたが、多くの方にご参加いただき、よかったですと思いました。

(環境学生委員会副委員長 塚原 美都)



参加者に作り方を教える様子

3. キャンドルナイト2017を開催しました



7月12日(水)に農学部環境学生委員会主催イベント「キャンドルナイト2017」を生協前広場で開催しました。

7回目となる本イベントですが、夏の冷房使用を控え、省エネルギーに努めることを目的とし、今回は初めて屋外を会場としました。照明の代わりに約200個のミツロウキャンドルを灯し、初夏の夕涼みを100名を超える方々で行うことができました。

今回は、環境に関するミニ講座「夏の信大Earth Café」を

オープニングに開催し、ジビエをテーマに猟師の小淵幸輝氏(南アルプス里山案内人協会)、食肉加工人の山崎悟氏(山崎商店(松本市))、ジビエ料理人の長谷部晃氏(ざんざ亭(伊那市長谷))と、本学部学生との対談を行いました。最近、ニュースや地域の話題であるジビエについて、それぞれの立場からお話や面白いエピソードを伺うことができ、貴重な時間となりました。

その後、本学サークルの演奏、発表や、対談企画でお話いただいたざんざ亭の長谷部様にジビエ料理をご提供いただき、会場はより活気に溢れていました。演奏に使用する電力は、みよしや/非電化工房松本支部様からお借りした独立型ソーラー発電機を使用しました。日が落ちた頃、環境学生委員が伐採、加工したウッドキャンドルに火を灯し、また違う雰囲気になりました。

来場された方から、「外での開催は開放感があって過ごしやすい」「学生さんの活気ある様子を楽しみました」という声をいただきました。

初めての試みが詰まった今回のイベントでしたが、無事終了することができました。イベントを通じて感じたことや、環境への配慮の大変さを今後活かしていければと思います。ご協力いただきました地域の皆様、学部内の皆様に心より感謝申し上げます。

(環境学生委員会 委員長 難波 成恵)



環境ニュースに関するご意見・ご質問・投稿記事などがございましたら

EMS事務局：agri-eco@shinshu-u.ac.jpへご連絡ください